

平成30年7月豪雨災害における緊急消防援助隊大阪府大隊活動概要



被災者に寄り添う 消防活動

第2次派遣 指揮支援隊
大阪市消防局 司令課
南方面隊長
消防司令長 居波 安彦

7月6日23時50分、先遣活動隊として大阪府統合機動部隊15隊52名を引き連れて進出拠点である広島県消防学校へ出発した。

被災地に近づくにつれて雨は一段と激しさを増した。高速道も一部がけ崩れにより通行不能となっていたため一般道に降りて迂回したりしながら、最終的に15時間をかけて広島県消防学校に到着した。さらに活動拠点である安芸消防署に移動し、安芸区及び安芸郡(熊野町川角・坂町小屋浦・安芸区矢野東7丁目・安芸区畑賀町・安芸区上瀬野町)において先遣活動を実施したが、どのエリアも土石流で押し潰され二次災害の危険があった。

活動は大阪府大隊87隊を5中隊に編成して行い、9日までに6名を救出したが、生存者はなかった。

活動隊員は、大雨のち炎天下と、気象が目まぐるしく変化する中、一人でも多くの人命を助けるという強い気持ちを持って懸命に救出活動を続けた。また救急隊は、避難所への巡回や住民の健康チェックなどを実施した。そして後方支援隊は、活動隊員の体調面を縁の下からしっかりと支え、それぞれの部隊が自分たちの役割を精一杯行うことで、緊急消防援助隊に課せられた本来の任務にとどまらない「被災者に寄り添う消防活動」ができたと感じた。



指揮支援隊として 果たすべき役割

第1次派遣 指揮支援隊
大阪市消防局 司令課
西方面隊長
消防司令長 高垣 忠利

7月6日の夜、事務所に置かれたテレビが映す地図上には、大雨特別警報の発令を示す紫色の部分がどんどん増え続ける。緊迫する中、「準備しとこか」と誰からともなく声が上がリ、皆の動きが慌しくなった。

その後、消防庁長官からの求めにより緊急消防援助隊出場が決まった。

自分の任務は大阪市指揮支援隊長。本来ならヘリで飛ぶところ、悪天候のため2台の車両に7名が分乗して消防局を出発した。

一路被災地を目指すも、土砂崩れや冠水のためいたるところで道路が寸断しており、あるところでは一面冠水のために道路と川の境が分からなかったり、またあるところではつい先ほど崩れたと思われる土砂に行く手を阻まれたりとの危険と絶望感に何度も襲われながら、被災地に到着したのは出発から約11時間が過ぎていた。

特別警報が発令されている場所に向かうのは初めての経験で、災害が進行する中に被災地に入るのは震災とは大きく違う。

指揮支援隊の任務は、被災地消防本部で長を補佐しながら緊急消防援助隊の活動を管理すること、今回はそれに加え、被災地入りする部隊の先頭を走り、先遣的な動きで後続隊に正確な情報を送り続けることを強く意識したが、道標となるべきその役割は果たせたと思う。